

# News Letter

ニュースレター

2023.3 vol.123



## 特集◎ 熱田神宮周辺のまちづくり

機運を高めた「熱田神宮伝馬町駅」の誕生

### 調査研究

「減災まちづくり」の啓発活動を実施しています。

### まちづくり支援

今年度は「小ネタ」「推し」です。

### まちづくり来ぶらり

二つの「龍泉寺」

熱田神宮伝馬町駅の装飾 コンセプトは「あつた名所図会」。シンプルな線画で描かれた熱田の今昔。名所やお祭を見つけよう。



# 熱田神宮周辺のまちづくり

## 機運を高めた「熱田神宮伝馬町駅」の誕生



おもてなし武将隊も馳せ参じた  
駅名変更記念セレモニー

あつた宮宿会 提供



あつた朔日市 熱田ゆかりの商店や企業が出展。老舗4社（きよめ餅・亀屋芳広・妙香園・あつた蓬莱軒）がコラボして作った名物「あつた宮餅」も人気。名古屋学院大学のブースも（写真中央）。



### 駅名変更へ、地元の思い

2023年1月4日、名古屋市営地下鉄の4つの駅が新しい駅名になってスタートしました。「中村区役所」は「太閤通」、「市役所」は「名古屋城」、「神宮西」と「伝馬町」は、ともに熱田神宮を冠して「熱田神宮西」「熱田神宮伝馬町」に。そのなかで「熱田神宮伝馬町」は、住民の要望で駅名変更が実現した、とても稀な例でした。

年間700万人を超える参拝客を迎える熱田神宮。その最寄り駅として、地下鉄の駅名に「熱田神宮」を入れることは、地元で商売を営む事業者の長年の思いでした。「熱田神宮は大きな集客の場所。私たちはその恩恵を受けて、商売につなげています。地元ではない人にも、わかりやすくここで降りてい

ただくために駅名を変える、そのチャンスは逃したくないと思いました」。そう語るのは花井芳太朗さん。「熱田を盛り上げよう」と若手事業者や大学などで結成された「あつた宮宿会」の会長です。宮宿会の動きを受けて、白鳥学区連絡協議会の中田俊夫会長も、地域の人たちの、歴史ある「伝馬町」という名を残したいという思いを汲みながら丁寧に合意形成を図り、熱田区、名古屋市交通局と協議を重ねました。新駅名は「熱田神宮伝馬町」に決定。事業者、地域住民、それぞれの思いを盛り込んだ駅名が誕生しました。

新しい駅のスタートには、あつた宮宿会、白鳥学区連絡協議会などと名古屋市がタッグを組んだ「伝馬町駅魅力向上実行委員会」が、駅壁面等の装飾や記念セレモニーを企画。地域の個性を

表現する一味違う駅をアピールしました。「駅名を変えて、子どもたちにつなげていけた。地域にかかわる団体がそれをどう生かし、どうアクションを起こすかが次のステップ」と花井さんは次を見据えます。

### まちづくりの、さまざまな担い手たち

2007年、熱田区に移転した名古屋学院大学は、熱田区の大学として、移転当初から社会連携・地域連携を掲げ、熱田区やあつた宮宿会との関係づくりをすすめてきました。長年にわたり地域に入ってまちづくりをサポートしてきた水野晶夫教授は、「この地域のまちづくりには、事業者、学区、行政そして大学、4者に強い絆がある」と言います。



君を  
待たせ  
熱田



熱田ブランドロゴマーク “熱田”という地域そのものをブランド化しようと熱田区と名古屋学院大学が協働。熱田ゆかりのグルメなどを「熱田ブランド」として盛り上げる。キーフレーズは学生が考案。

熱田神宮の門前からまちとなり、江戸時代には東海道随一の宿場として栄え、今も史跡が多く残る歴史と文化のまち・熱田区。愛着を持って住み続ける住民が高齢化する一方、マンション建設で新しい住民も増えてきました。住民同士の結びつきが薄れるのを危惧する中田さんは、白鳥学区の会長として地域の防犯・防災活動はじめ講演会やコンサートなど毎年さまざまな事業を展開。「白鳥学区に住んでいてよかったと思ってもらえるようになってきた」と手ごたえを感じています。

あつた宮宿会は2014年の結成以来、講演会や「あつた朔日市」、「宮の浜市」など話題のイベントを開催。熱田の歴史を子どもたちに伝えようとオリジナル紙芝居やカルタを制作して区の小



江戸時代の熱田を感じてみよう  
熱田歴史探訪は、アプリ「なごや歴史探訪」から ▶



## 賑わいあふれるまち 熱田へ

駅名変更はこれからのまちづくりへの新たな一歩です。熱田区役所は熱田のさまざまな魅力をPRしようと、「熱田歴史探訪」を開催。デジタルスタンプラリーや、ARで熱田神宮の失われた「海上門」を蘇らせるなど江戸時代の熱田境界を楽しめるコンテンツを提供。スマホ片手にまちめぐりができると、人気を博しています。さらに白鳥学区の宮の渡し・大瀬子地区を対象とした「熱田湊まちづくりビジョン」では、宮の渡し公園や大瀬子公園の再整備が構想されています。そして熱田神宮の東側、JR熱田駅から名鉄神宮前駅にかけての地域でもまちづくり協議会が発足し、再開発へ動き出そうとしています。

次なる課題は、回遊性をどうつくるか。熱田神宮を中心に老舗商店をめぐったり、旧東海道を散策したり。熱田の人たちは、これからのまちづくりに大きな可能性を抱いています。



宮の渡し公園 かつて「熱田湊」と呼ばれ、東海道随一の宿場町「宮宿」と「桑名宿」を海上航路で結ぶ「七里の渡し」の船着き場があった場所。

## 熱田への、熱い思いで活動中 あつた宮宿会

2014年、熱田の食の老舗（あつた蓬萊軒、宮きしめん、きよめ餅、亀屋芳広、妙香園）や名古屋学院大学、地域NPO団体などで結成されたあつた宮宿会。人気の「あつた朔日市」は、毎月一日に寺社を参拝する古くからの風習「朔日参り」を広く知ってもらおうと、熱田神宮、熱田区の協力の下、あつた宮宿会が開催。メンバーは皆お揃いの法被を着て雰囲気盛り上げます。「40代の会員が多く、勢いがある楽しい会です」と広報委員長の鈴木瑛司さん。熱田神宮伝馬町駅の壁面等をデザインしたデザイナーでもあり、インフルエンサーへの情報提供などSNSも積極的に活用して熱田の魅力を発信しています。

「日頃お世話になっている熱田神宮にもっと多くの人に来てほしい。そして熱田神宮と宿場町・熱田の宮をどうつなげていこうかと考えていきたい」と、熱田の今後に思いを馳せます。



鈴木瑛司さん(右)と副会長の大矢晃敬さん



# 「減災まちづくり」の啓発活動を実施しています。

## はじめに

阪神・淡路大震災(1995)や東日本大震災(2011)といった過去の大規模自然災害の教訓として、災害発生時における“自助・共助”、あるいは住民と行政による多重的な取り組みによる“減災”の重要性が唱えられる中、名古屋都市センターではこれまでに地域防災の取り組みとして“減災まちづくり研究会”(2011-2013)や「地区の減災まちづくりガイドライン」(2016.3)の作成などの活動を行ってきました。

また、こうした取り組みを支援するためのツールとして「まち

づくり情報システム(ISM<sup>イズム</sup>)」を名古屋大学減災連携研究センターと共同開発し、地区の災害リスクの確認や防災・減災マップの作成、助け合いルールの検討などに活用していただいています。

今年度も各団体における講義やブース出展を通じて、多くの方々に防災・減災を啓発する機会を得ることができました。その内容をご紹介します。



## 実施概要

①名古屋学院大学の2022年「まちづくり学」(現代社会学部 澤田景子先生)の授業(前期・後期)に講師としてお伺いし、ISMの活用を含め、減災・防災、まちづくりについて講義をいたしました。前後期で計4回、延べ約600人の学生に、自らのPCを使ってISM



【講義】名古屋学院大学

②あいち防災協働社会推進協議会及びあいち・なごや強靱化共創センター主催の「防災・減災カレッジ(防災人材育成研修)」の「防災行政コース」にて、「減災まちづくりの展開」と題して講義をいたしました。前後期で計2回、一般の方をはじめとして行政、企業・団体など幅広く、約120名にISM



【講義】防災・減災カレッジ

のデモンストレーションを含めて、ご聴講いただきました。(7/14、11/29)

③あいち・なごや強靱化共創センターと共同で「第7回防災推進国民大会2022in兵庫」において、ISMの周知・啓発ブースを出展しました。ブースには子どもから専門家まで、全国から約300名の方々に来ていただき、ISMに触れていただく機会となりました。(10/22-23)



【ブース出展】第7回防災推進国民大会2022in兵庫

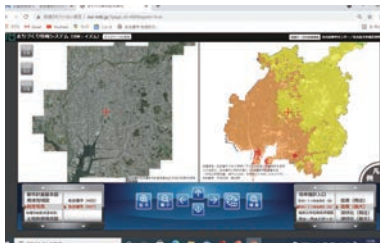
④名古屋市立山田中学校の総合的な学習の時間として、中学1年生約60名に『「防災・減災学習」まちづくり情報システム(ISM)の活用について』と題して講義をいたしました。講義の中で、生徒にもiPadを使用してISMを体験いただき、自分たちの“まちのリスク”などを調べる実習を行いました。(12/2)



【講義】名古屋市立山田中学校

## 参考

「まちづくり情報システム(ISM イズム)」(ISM: Information System for Machizukuri)は、減災・防災まちづくりなど、地域の多様なまちづくり活動を支援することを目的に、名古屋都市センターと名古屋大学減災連携研究センターが共同で開発を行い構築したシステムです。災害危険度の情報やまちづくり情報が簡単な操作でWEBサイトからアクセスできます。



【参考】ISMの画面(Webシステム)

まちづくり情報システムの利用はこちら ▼  
<http://nui-mdc.jp/>

ISMはパソコンまたはタブレットPCでのみ利用可能です



名古屋都市センターのホームページでは、研究報告書とYouTube動画を公開しております。ぜひご覧ください。▶





# 今年度は「小ネタ」「推し」です

人材育成事業「まちづくりびと講座」、そして、地域のまちづくりの推進のための勉強会「地まちCampus」。今年度、都市センターではこれら二つの事業を「小ネタとまちづくり」をテーマに開催しました。

## まちづくりびと講座

10月から12月までの4回連続講座。まちあるきをして、各自気になる「小ネタ」を見つけた後、調べを深め、人に伝えるために磨き上げ、それをもとに「小ネタ新聞」を作成。その過程で、地域への愛着が高まりました。

受講生が取上げた小ネタは一人ひとり違って、同じまちを見ても、引き寄せられる点は十人十色。誰でもない、私自身が発掘した魅力。そんな小ネタを持つことで、まちを「好きに」なるマジックが引き起こされるのではないかと、講座を終えて感じました。



「まちが いい メガネ」とは、それをかければ見えていなかったまちの魅力が見えるようになるというものです。

講座の開催レポートと、受講生が作成した「小ネタ新聞」はこちら



上記の講座の中で紹介したのが、東京大学社会科学研究所の提唱するKNT理論。講座の学びの理論的な側面を支えてくれました。これが好評だったため、2月には、提唱者のお一人を招いて、下記の講演会を開催し、さらに「小ネタ」を追求しました。

## KNT理論 (KONETA=小ネタ)

「小ネタが尽きない限り、地域は持続する」という考え

## 地まち Campus

2月に開催した講演会には、中村寛樹准教授が登壇。作詞・製作に関わられたという楽曲「小さなタネ」を、ゲストのサトウヒロコさんが披露。その後のワークショップでは、地域の小ネタを歌にしてみようと、作詞に挑戦。「伝え方を変えただけで、伝わることもある。地域のことを知るきっかけにもなる。まずはこんな小さな取り組み=小ネタから。その積み重ねで大ネタが活きてくる。」と、まちづくりに取り組む皆さん、そしてこれからの名古屋というまちにとって、とても大切なヒントとなりました。



都市センターはこれからもみなさんの一歩を応援していきます！

## まちづくりびと講座受講生が まちの私設図書館を開設しました！

令和3年度まちづくりびと講座は「本を扉にしてまちへ出よう」として、本を使ったまちづくりをテーマに開催。講座終了後も皆さんの実践を後押しするため、オープンチャット等で情報交換を続けてご縁が繋がり、令和5年2月、二人の受講生が南区の笠寺に私設図書館をオープンしました！

「本でまちと人を繋ぎたい」。講座のときから温めてきたその思いが実現し、まさに「本を扉にしてまちへ」一歩踏み出したお二人。地域のまちづくり団体の協力も力強く、早くも地域に溶け込んでいます。



私設図書館は南区・笠寺の空き家活用の「かさでらのまち箱プロジェクト」で集まった和菓子屋さん、アロマショップ等との複合店舗。店舗のデザインとDIY施工を、愛知淑徳大学で建築を学ぶ宮本ゼミの学生3名が担ってくれたということです。

# まちづくり来ぶらり

第90号

まちづくりライブラリー  
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。



龍泉寺(瑞穂区)山門と亀井水



龍泉寺(守山区)仁王門

## 二つの「龍泉寺」

名古屋で「龍泉寺」というと、守山区の龍泉寺(りゅうせんじ)を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。天台宗の寺院で、本尊は馬頭観音。尾張四観音の一つとして、古くから信仰を集めています。四観音は家康が「名古屋城守護神」と定めた寺院です。それぞれ名古屋城から見て鬼門の方角に位置し、龍泉寺は東北東を鎮護しています。節分には、その年の恵方に当たる寺院に参拝するとご利益が大きいとされ、令和6年に龍泉寺は恵方に当たります。また慶長12年(1607年)建立の仁王門は入母屋造りの柿葺きで、昭和3年に国の重要文化財に指定されています。

さて名古屋市内には同じ表記をするお寺がもう一つあります。

瑞穂区井戸田の閑静な住宅街にある曹洞宗の寺院で、こちらは「りょうせんじ」と読みます。

行基(668年~749年)の開基で、かつては真言宗の伽藍であったといわれています。それが室町時代の末に、曹洞宗、熱田円通寺の末寺となりました。本尊薬師如来は聖徳太子作と伝えられ、別称は井戸田薬師。尾張名所図会によると摂州四天王寺、三州鳳来寺と共に日本三薬師の一つといわれています。境内には亀井水と呼ばれる井戸があり、これが山号の由来となりました。今も表門脇にあるこの井戸は、源頼朝が産湯の水に使ったといわれています。

宗派の違うこの二つの寺につながりはありませんが、どちらも尾張名所図会に描かれている古刹です。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

- 『名古屋郷土叢書』Sc-コ
- 『瑞穂区の歴史』Sc-ア
- 『守山区の歴史』Sc-ア
- 『尾張名所図会』Sc-ア

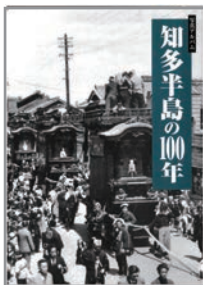
※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

## 図書紹介

### 『写真アルバム 知多半島の100年』

監修・執筆：森 靖雄  
 出版社：樹林舎  
 請求記号：Sc-モ

知多半島5市5町の明治、大正、昭和、平成の100年間を回顧する写真集です。テーマごとに分類して収録されています。各写真には郷土を知る執筆者の解説が付けられ、地域の歴史や当時の人びとの暮らしが深くわかる内容となっています。



### 『あしたの防災- 地球科学者と考える災害と防災』

著者：神沼克伊 著  
 出版社：青土社  
 請求記号：Ma-カ

自然災害から身を守るにはどうしたらいいのか。まず「敵(=災害)を知る」ことから始めよう。遠回りに思えても地球環境について、気象や地震の起こるメカニズムについて、さらに過去の災害について知ることが重要だと本書は言っています。それを踏まえ、対策を考えることが大切なことだと教えてくれます。



### 『ヨーロッパのドボクを見に行こう(新装版)』

著者：八馬 智 著  
 出版社：自由国民社  
 請求記号：Fa-ハ

日本にはないスケールやユニークな発想、また斬新なデザインや有名建築家の作品などを掲載し、著者が実際に体験したヨーロッパのドボクの魅力を写真と解説で伝えています。インフラツーリズムの実践ガイドとなるのではと伝えています。





# 1 令和5年度のまちづくり活動助成の募集が始まります!

名古屋都市センターでは、地域主体のまちづくり活動を行う団体向けに、仲間づくりから実践まで、まちづくり活動の段階に応じた助成メニューを用意しています。



- 1. 団体づくり助成 (まちづくり活動助成スタートアップ部門)**  
「まちづくり活動をこれから始めたい」と思っている、あるいは活動を始めて間もない団体に向けた助成です。
- 2. 成長支援助成**  
活動を広げていきたいという団体に向けて、地域との関係づくりや公共空間を活用した社会実験の実施、まちづくり構想の策定などを支援する助成です。
- 3. 実践活動助成**  
まちづくり構想の実現に向けた実践的な活動を支援する助成です。以上の3つのメニューで、みなさんの活動を応援します。

令和5年度は4月から募集開始予定です。  
※助成にあたっては要件があります。  
※事前相談が必須です。

詳しくは名古屋都市センターHP「まちづくり活動助成」のページをご覧ください。



# 2 「NAGOYAまちづくりの動向」企画展の開催

11階まちづくり広場にて、名古屋市住宅都市局発行「名古屋まちづくりの動向」のパネル展示を中心とした、「まちづくりの現在・未来」を紹介する企画展を開催します。

名古屋市住宅都市局の各施策を知ることを通して、名古屋のまちづくりの現在・未来に興味を持っていただけると幸いです。

**【タイトル】**NAGOYAまちづくりの動向～「居心地が良く歩きくなる」ウォーカブルなまちなかの形成を目指して～  
**【日時】**令和5年3月21日(火)～5月28日(日)  
**【会場】**名古屋都市センターまちづくり広場(金山南ビル11階)  
**【内容】**

- ①「まちづくりの現在・未来」に関するパネル展示  
名古屋都市住宅都市局発行「名古屋まちづくりの動向」のパネル展示に加えて、当センターオリジナルグッズがもらえるクイズも開催します。
- ②「まちづくりの現在・未来」に関する交流イベント  
「地域まちづくり」関連イベントやまちづくり講演会、子ども向けまちづくりワークショップを開催します。
- ③「まちづくりの現在・未来」に関するSNSキャンペーン  
「人におすすめしたい名古屋の“まちなみ”」の写真と文を募集します。



※本企画展の詳細情報は、名古屋都市センターHPにてご確認ください。

# 3 機関誌アーバン・アドバンス No.79発行 特集「3D技術でひろがるまちづくり」

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究結果などを掲載しています。

79号のテーマは「3D技術でひろがるまちづくり」です。先端技術の進展により、VR(仮想現実)をはじめとした3D技術の活用需要はますます高まっており、まちづくりにおいても新たな可能性をもたらすことが期待されています。このような中、3D技術を活用した取り組みや今後の展望について特集します。

※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しております。  
(令和5年3月末発行予定)



# 4 名古屋都市センター賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援してくださる令和5年度の賛助会員を募集しています。

当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

### 《賛助会員の種類》

- ・法人会員(年会費 1口50,000円)
  - ・学校法人(年会費 1口50,000円)
  - ・個人会員(年会費 1口5,000円)
- (期間:令和5年4月1日から翌年3月31日まで)

### 《会員特典》

- ・機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- ・都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内(まちづくり講演会、施設見学会等)
- ・まちづくりライブラリーの利用を優待
- ・貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ
- ・都市センター出版物の割引販売
- ・税制上の優遇措置

詳細・申込につきましては、名古屋都市センターHPをご覧ください。

## 歴史まちづくり活動助成

1)「本山をアートと歴史でつなぐまちづくりの会」により「元古民家のアート&マインドセンターの活用と本山のまちを散策して昭和の建物探し、歴史ある蓮勝寺の保存活用を目的としたワークショップと展示・語りの会」を3回にわたり開催しました。

第1回では、地下鉄本山駅近くにある古民家を再生したアート&マインドセンターから、約90年前に建築された八木家、江戸時代からの歴史のある蓮勝寺まで、歴史や魅力を捜しながらまち歩きをし、蓮勝寺では住職から寺にまつわるお話を聞きました。

第2回では、『安心・安全なお掃除セミナー』と題して、建物に優しい、重曹やセスキ水を使ったお掃除講座と『和紙、日本製さらしの染色ワークショップ』と題し、オリジナルの染色による和紙の灯籠作りやさらしのランチョンマット作りを体験しました。

第3回では『歴史的建造物 蓮勝寺を活用した、現代アートとカラチの共演』と題し、第2回で作成した灯籠等を設置した会場で、講師に「ふみの会」の田中さんを迎えての講演と蓮勝寺の住職による箏の演奏がありました。本山駅界隈には歴史的建造物が多く、町の歴史を語る建物として、長く活用、保存していただきたいと思いました。

2)「歴史的な現代建築物を保存活用する会」により『旧加藤商会ビルを保存活用する室内楽をより身近に&建物の歴史講座』を開催しました。

当日は、会員による旧加藤商会ビルの建物講座や、「トリオクルヴェット」による室内楽(事前予約制)、一般参加者を対象にした見学会が開催され、参加者は歴史的建造物に響く室内楽の魅力や、歴史的建造物の魅力を十分堪能されたようでした。

令和4年度実施された事業の一部をご紹介します。



歴まちくんとおとも

## 歴史まちづくり連続講座

元名古屋市職員の杉山正大さんによる、歴史まちづくり連続講座「地歴からたどる三の丸・広小路・大津通の成り立ち」を開催しました。

第1回の三の丸では、郭内には、古代以前に古墳や弥生集落があったこと、名古屋城の築城後は家臣の屋敷が、明治から戦前には軍の施設が、戦後には進駐軍の住宅(キャッスル・ハイツ)やその家族のための野球場があったことなど興味深いお話がありました。

第2回では、広小路について取り上げ、広小路に面して武家屋敷や商店が立ち並び、その跡地を銀行やデパートにしたことやまちづくり活動助成で活用した旧加藤商会ビルなどの地歴が紹介されました。

また、今の中区役所前あたりの広小路の突き当りはロータリーになっており、日清戦争戦没記念碑(現在は日泰寺に移設)が建ち、周辺には県庁や市役所がありました。名古屋駅や千種駅の整備に合わせた広小路の延伸により移転をしたことが紹介され



まち歩きの様子



旧加藤商会ビル当日の様子



講座の様子

ました。

第3回では大津通を取り扱いました。江戸時代は本町筋が最も重要な通りで、大津通は重要な通りではなかったが、大津橋を架設したことや熱田駅の整備により、通りの位置づけが上がり、拡幅されたことが紹介されました。栄交差点(現三越前)の北東に日本銀行があったことから、線形が交差点で雁行して拡幅されたとのことでした。

また通り沿いの、今の三越や松坂屋、ガスビルやパルコの地歴が紹介されました。

歴史まちづくり講座は皆さんの関心が高く、多くの方が参加されるとともに、当日もいろいろな質問がされました。

なお、令和5年度も「歴史まちづくり活動助成」と「歴史まちづくり連続講座」を開催する予定で、「なごや歴まちネット」でお知らせをいたします。

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

 **名古屋都市センター**  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



## 利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

【11階】まちづくり広場  
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)

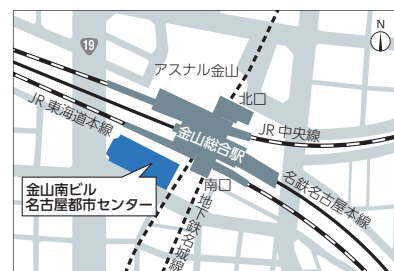
【12階】まちづくりライブラリー

火～金曜日: 10:00～18:00

土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、  
年末年始

まちづくりライブラリーは、  
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS  
やっています!

